

広告



ハンセン病療養所を訪れて



羽嶋 千晴 さん
宮崎県立白当山中学校
2年生

入所者の姿勢を胸に

星塚敬愛園を訪問して、元患者の方々が厳しい環境の中、自立して今を幸せに生きようとしているのを感じることができました。その姿を胸に刻んで、私自身もこれから一歩ずつ確実な人生を歩んでいきたいと思えます。



垣内 なずな さん
鹿児島県立吉野中学校
3年生

今も残る偏見や差別

らい予防法が廃止された今でも、ハンセン病に対する偏見や差別は存在しています。次世代を担う私たちがハンセン病の歴史について正しく学び、元患者の皆さんを決して悲しませることのない世界にしたいです。



中山 莉李 さん
奄美市立朝日中学校
3年生

正しく知ることが大切

ハンセン病は感染力がとても弱く、感染したとしても発病することはまれです。しかし、治らないという誤解や、遺伝するという迷信が広まったことで、患者が差別を受けました。「知らない」というのが一番怖いことだと思います。



長崎 大成 さん
鹿屋市立大始良中学校
3年生

まずは日常の意識から

私たちが日頃の生活の中で他人に対して差別をしたり、偏見を持ったりしないことが、何よりも大切です。それが最終的にハンセン病への理解にもつながると思います。世界中の人々が心の苦しみから解放されることを祈っています。

ハンセン病とは

ハンセン病は「らい菌」という細菌に感染することで起こる病気。手足の指先の神経が麻痺したり、皮膚がただれたような状態になったりすることがあるんだ。でも、らい菌の感染力はとても弱く、感染しても発病することはほとんどないよ。発病後も適切な治療を受ければ治るんだ。

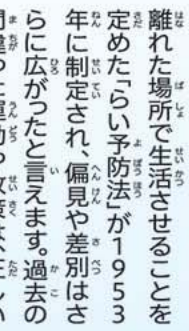
今回のシンポジウムでは、第1部で中学生とハンセン病回復者の交流を描いた映画を鑑賞。第2部前半の基調講演では、ハンセン病回復者の岩川洋一郎さんとハンセン病の国立療養所である星塚敬愛園の園長、後藤正道さんの話を聞いたよ。後半のパネルディスカッションでは、地元の中学生が、県内の国立療養所を訪れて感じたことをまとめた作文を発表したり、岩川さんや後藤さんたちと意見を交わしたりしたんだ。

誤った国の政策によって、私は1948年に小学5年生で星塚敬愛園へ強制的に収容されました。療養所では想像を超える厳しい生活が待っていました。



基調講演
「ハンセン病問題の当事者として」
国立療養所星塚敬愛園入所者自治会
会長 岩川洋一郎さん

ハンセン病患者を一般の人と離れた場所で生活させることを定めた「らい予防法」が1953年に制定され、偏見や差別はさらに広がったと言えます。過去の間違いを正しく学び、正しいことをしているという思い込みの下で行われました。今、世の中で起きていることも「本当にそうなんだろうか」と疑ってみることが大切です。



「ハンセン病から学んだこと」
国立療養所星塚敬愛園
園長 後藤正道さん

ハンセン病については、早い段階でこのようなことをする必要がないことが分かってきたので、国の政策は重大な人権侵害でした。ハンセン病問題では偏見や差別の原点を見ることができません。



「ハンセン病から学んだこと」
国立療養所星塚敬愛園
園長 後藤正道さん

コンサートでは会場が一体に
第3部は、歌手の大和田りつこさんと岡崎裕美さん、鹿児島市立少年合唱隊によるコンサート。人気キャラクター「アンパンマン」の生みの親である、やなせたかしさんが作詞・作曲をした曲や夏の童謡が披露されたんだ。



現在、日本中でハンセン病に対する偏見や差別をなくすための運動が起こっています。また先日、国連の人権理事会で「ハンセン病差別撤廃決議」というものが取り上げられ、多くの国が賛同しました。これはハンセン病に対する偏見や差別をなくすために世界中の人が力を合わせようという取り決めです。



コーディネーター
公益財団法人人権啓発推進センター
理事長 横田洋三さん



知っていますか? 「子どもの人権110番」

いじめや体罰などの困りごと、ひとりで悩まないで、相談してください

0120-007-110
(受付時間/平日8:30~17:15)

「インターネット人権相談」

インターネットでも人権の相談を受け付けています

パソコン <http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken113.html>
ケータイ <https://www.jinken.go.jp/soudan/mobile/001.html>

- 法務省人権擁護局ホームページ <http://www.moj.go.jp/JINKEN>
- 人権啓発活動ネットワーク協議会ホームページ <http://www.moj.go.jp/jinkennet>
- YouTube 法務省チャンネル <http://www.youtube.com/MOJchannel>
- YouTube 人権チャンネル <http://www.youtube.com/jinkenchannel>
- 人権ライブラリー <http://www.jinken-library.jp>

子どもの人権 SOS-eメール



インターネット人権相談 検索



人KENあゆみちゃん

ハンセン病に関する「親と子のシンポジウム」 鹿児島会場

偏見や差別のない未来へ
かっつての過ちを向き合おう

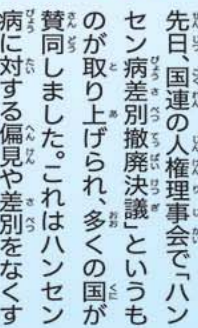
みんなは「ハンセン病」を知っているかな? ハンセン病患者だった人たちは、昔からひどい扱いを受けてきたんだ。7月20日に鹿児島県鹿児島市で、小中学生とその保護者がハンセン病を正しく理解するためのシンポジウムが開かれたよ。

映画や講演を通してハンセン病を学習

ハンセン病問題の当事者として



「ハンセン病から学んだこと」
国立療養所星塚敬愛園
園長 後藤正道さん



コーディネーター
公益財団法人人権啓発推進センター
理事長 横田洋三さん

ハンセン病問題啓発ビデオ

未来への虹

~ほくのおじさんは、ハンセン病~

ハンセン病回復者の平沢保治さんをモデルにして書かれた子ども向けの本をもとにしたアニメーション作品です。ハンセン病問題や人権の大切さについて正しく理解することができます。



〈ストーリー〉

小学6年生の正太は、国立療養所多磨全生園に住む平沢保治さんのもとへおつかいを頼まれた。初めて訪れる多磨全生園がどのような所かわからず、平沢さんの容姿に驚いて戸惑いを感じる正太。そして平沢さんは語りかける。ハンセン病にかかり、14歳の時に茨城県から入所したこと、外見がほかの人と違うために差別を受けてきたことを...